

## 若苗利用トマト抑制作型における 適品種と栽植様式および仕立て方等栽培管理方法

### 【1 成果の概要】

トマトについて、育苗の省力化と秋期の出荷量増加が期待できる若苗利用抑制作型の栽培管理方法を取りまとめました。

### 【2 栽培管理方法】

- (1) 品種は、夏秋栽培向け桃太郎系の中では、「桃太郎サニー」を選定します（図1）。
- (2) 株間は45cmとします。
- (3) 定植時のマルチ穴は、直径12cm程度と大きく開け、株元を乾燥させるようにします。
- (4) 若苗定植では草勢が強くなりやすく、規格外果や芯止まりの発生が多くなりがちですが、仕立て方法を「主枝2段摘心側枝1本仕立て」にすることで草勢を抑えることができ、商品果率も向上します。
- (5) 草勢を抑えるために定植時および生育初期のかん水は通常よりも控えます（約20cmの深さでpF2.7以上）が、第1花房開花期頃から徐々に通常の管理を行ってください。

### 【3 この技術を上手に使うには】

- (1) この技術では、1鉢寸法4.7×7.5cmのペーパーポット「No.15-7.5H」（日本甜菜製糖株式会社）を用いて育苗しております。
- (2) 若苗定植は草勢が強くなりやすいことから、過湿になりやすい圃場や土壌養分が過剰集積した圃場は避けてください。
- (3) 「主枝2段摘心側枝1本仕立て」方法は、主枝第2花房の着果を確認後、主枝を第3花房下で摘心し、主枝の第1花房下から発生した側枝を誘引していく方法です。強すぎる草勢を抑制し、安定化させるのに効果的な仕立て法です。
- (4) この技術により、総商品果収量で800kg/a、うち9月以降収量で500kg/a程度を見込むことができ、秋期の出荷量向上が期待できます。

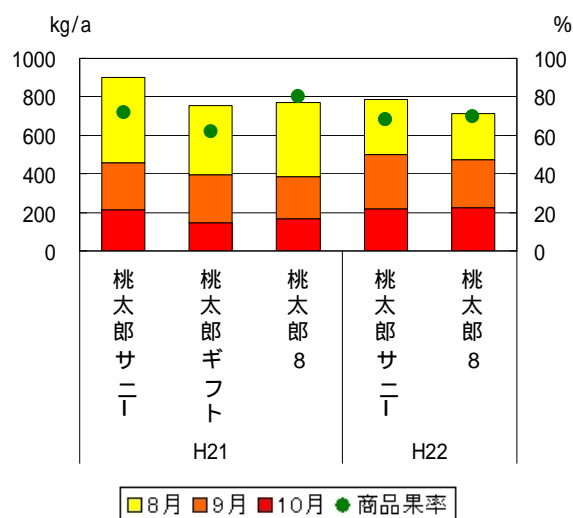


図1 時期別商品果収量 (kg/a) および商品果率 (個数%) の品種間差異



図2 定植時の様子